

平成21年度（2009年度）事業計画（案）

財団法人 日本水泳連盟

所 信

米国ではオバマ大統領が就任演説で、金融危機やテロとの戦いの為に、「国民の団結と行動」を訴えましたが、国内では混迷する政局と景気回復の目途が立たない事態が続いております。今、国民には自らがこの厳しい試練を乗り切るために「知恵と行動」が求められていると思います。

このような情勢下において、平成20(2008)年度の当連盟の事業は、順調に推移し計画通り終結する見込みであります。中でも北京オリンピックでは、特に北島康介選手の2種目2連覇という偉業もあって、多くの国民の皆様の期待に応えることができたと思っております。またこの活躍が国内の大会に波及効果をもたらした“活気ある年”でありました。さらに年末年始にかけては、古橋名誉会長の文化勲章祝賀会をはじめ多くのスポーツ人が集う慶び事が多い“幸せな年”でもありました。ここに改めて、ご支援ご協力をいただいた加盟団体はじめ関係各位の皆様へ、心から感謝と御礼を申し上げます。

本年は、私達を取り巻く環境が極めて厳しいと覚悟しなければなりません。こういう苦境の時には、原点に立ち戻り柔軟な考え方が肝心であります。一つは、前向きに自信を持って、常に「希望」に満ちていること。二つ目はしっかりした将来「展望(計画)」を持つこと。もう一つは、自前の知恵で「辛抱」すること。この3つの「ボウ」が必要だと思えます。来年度の課題において、競技力向上事業の最大目標は、8月ローマで行われる世界水泳選手権大会で、ロンドンに向けて更なる前進を遂げることであります。

競泳では、将来成長に期待が集まる新鋭達が、世界の強豪相手に物おしせず積極果敢に挑戦し、是非納得いく成績を挙げて欲しいものです。シンクロは、新旧交代を図った“新生ジャパン”が、日本のシンクロの底力を実績で示すことを期待します。飛込については、現有選手のレベルアップと同時にジュニア選手の発掘を組織的に行い、その中から世界戦略の為に“少数精鋭”の強化へと転換を図る必要を感じます。水球は、当面“アジアの覇者”を目指すのが妥当と思えますが、まず、世界を視野に入れた強化方策を関係者にしっかりと周知徹底を図ることが先決と考えます。OWSは、努力を重ね一歩一歩着実に成果を上げ、早く世界と戦える仲間入りを叶えてください。

競技運営事業については、8月日本(東京)でアジアエージグループ水泳選手権大会を開催しなければなりません。これを機に、ジュニア層のレベルアップとともに大会の準備運営に万全を尽す所存であります。財務関係事業では、前述の“世界水泳”への選手団派遣や「アジアエージ」の開催等の財源確保と節減活動の徹底等対策をとらねばなりません。その他の事業についても難題が山積しておりますが、業務推進に当っては今まで以上に目標管理のレベルアップを図る必要があり、着実なフォローが大切であります。なお、来年度は役員改選による新体制で更なる結束を固め、この難局を乗り越えねばなりません。

引き続き加盟団体はじめ関係各位の皆様のご理解とご支援ご協力をお願い申し上げます。

平成21(2009)年2月15日

会長 林 利博

国際競技大会参加予定一覧

(注) 印は主要競技大会

種目	競技会	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
競	オリンピック大会				8月	
	世界選手権大会	7月		7月		
	アジア大会		11月			
	ユニバーシアード大会	7月				
	パンパシフィック大会		8月			
	アジア選手権大会					
	東アジア大会	12月				
泳	短水路世界選手権大会		4月			
	ワールドカップ大会					
	ユースオリンピック大会					
	FINAジュニア世界選手権大会					
	豪州AG大会					
	ジュニアパンパシフィック選手権大会		8月			
	ヨーロッパグランプリサーキット大会	6月				
飛	ジュニア選抜遠征					
	アジアエージ選手権大会	8月				
	地域代表海外派遣(シンガポール)	3月				
	込	オリンピック大会				8月
		世界選手権大会	7月			
		アジア大会		11月		
		ユニバーシアード大会	7月			
FINAワールドカップ						
アジア選手権大会						
東アジア大会						
球	カナダ・U.S国際・中国 グランプリ大会					
	アジアエージ選手権大会					
	ジュニア世界選手権大会					
水	オリンピック大会				8月	
	世界選手権大会			7月		
	世界選手権アジア予選					
	アジア大会		11月			
	ユニバーシアード大会	7月				
	アジア選手権大会					
	FINAワールドリーグ					
シ	アジアエージ選手権大会					
	ユース海外派遣					
	ジュニア世界選手権大会					
ン	オリンピック大会				8月	
	世界選手権大会	7月		7月		
	アジア大会		11月			
	アジア選手権大会					
	オリンピック大会予選会					
	ワールドカップ大会					
	ローマオープン大会	-				
スイスオープン大会						
ク	FINAワールドトロフィ					
	ジュニア世界選手権大会					
	アジアエージ選手権大会					
	ジャーマンオープン					
口	チェコ国際ジュニア					

1. JOC 事業

(1) 第25回ユニバーシアード大会

期間・場所	7月1日～12日	セルビア・ベオグラード
競技種目・日程		
(a) 競泳	7月5日～11日	
(b) 飛込	7月4日～10日	
(c) 水球	7月1日～12日	
選手団編成		
選手選考		
(a) 競泳	4月16日～19日	日本選手権大会 浜松市総合水泳場
(b) 飛込	4月 3日～ 5日	日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
(c) 水球	4月 4日～ 5日	国立スポーツ科学センター（JISS）
合宿計画		
(a) 競泳	未定	
(b) 飛込	未定	
(c) 水球	未定	

(2) 第5回東アジア競技大会

期間・場所	12月2日～13日	中国・香港
競技種目・日程		
(a) 競泳	12月6日～10日	中国・香港
(b) 飛込	12月11日～13日	中国・香港
選手団編成		
選手選考		
(a) 競泳	6月 5日～ 7日	ジャパンオープン東京辰巳国際水泳場
(b) 飛込	4月 3日～ 5日	日本選手権大会 東京辰巳国際水泳場
合宿計画		
(a) 競泳	未定	
(b) 飛込	未定	

2. 特別事業

(1) 第13回世界水泳選手権大会

期間・場所	7月16日～8月2日	イタリア・ローマ
競技種目・日程		
(a) 競泳	7月26日～8月2日	
(b) 飛込	7月18日～25日	

- | | | | |
|------------------|------------|---------|-----------|
| (c) シンクロ
選手選考 | 7月18日～25日 | | |
| (a) 競泳 | 4月16日～19日 | 日本選手権大会 | 浜松市総合水泳場 |
| (b) 飛込 | 4月3日～5日 | 日本選手権大会 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (c) シンクロ
合宿計画 | 平成21年1月25日 | 選手選考会 | 東京辰巳水泳場 |
| (a) 競泳 | 未定 | | |
| (b) 飛込 | 未定 | | |
| (c) シンクロ | 未定 | | |

(2) 第6回アジアエージグループ選手権大会

- | | | |
|------------------|--------------------------|---|
| 期間・場所 | 8月7日～8月13日 | 日本・東京・千葉 |
| 競技種目・日程 | | |
| (a) 競泳 | 8月9日～13日 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (b) 飛込 | 8月9日～13日 | 東京辰巳国際水泳場 |
| (c) 水球 | 8月7日～13日 | 東京体育館 |
| (d) シンクロ
選手選考 | 8月9日～13日 | 千葉県国際総合水泳場 |
| (a) 競泳 | 3月27日～30日 | 全国 JOC シニアリリックカップ 春季水泳競技大会
東京辰巳国際水泳場 |
| (b) 飛込 | 未定 | |
| (c) 水球 | 4月4日～5日 | 国立スポーツ科学センター (JISS) |
| (d) シンクロ | 13-15才 & 16-18才
12才以下 | 平成21年1月、3月
平成21年6月予定 |
| 合宿計画 | | |
| (a) 競泳 | 未定 | |
| (b) 飛込 | 未定 | |
| (c) 水球 | 未定 | |
| (d) シンクロ | 未定 | |

3. 競技力向上事業

(1) 競 泳

競泳委員長 上野 広治

平成21年度上期事業の最主要国際大会は、ローマで開催される第13回世界選手権大会である。北京オリンピックの翌年であるが、この大会でメダルを獲得できなければ、ロンドンオリンピックでの金メダルはないという心意気で大会に臨みたい。5月、1963年以来のオーストラリアとの対抗戦は、トップクラスとジュニアクラスのミックスで派遣し、ロンドンそして東京オリンピック対策として、レベルアップを図るとともに国際経験を積ませ、将来に備えることにしている。また、ロンドン対策に繋がるヨーロッパでの国際大会を豊富に経験させる意味でも、来年度のユニバーシアード大会の位置づけは高く、大学生の大きな飛躍を期待したい。

平成21年度下期事業は、ワールドカップ大会（特にヨーロッパ大会）にトップクラス選手を派遣する。また、オリンピック候補強化合宿を実施する予定である。底辺の拡大からロンドンオリンピックで金メダルおよびメダルを獲得するために重点強化を早期から実施し、更なるトップクラスのレベルアップを目的として行う。また、幅広いチャンスという意味でも東アジア大会・アジア選手権にも派遣し、アジアでの国際大会で経験を積ませ、世界レベルへ大きく飛躍させたい。

ジュニア強化（高校生及び中学生）は、上期のオーストラリアとの対抗戦（男子大学1・2年生含む）と、中学生以下の強化としてアジアエージ選手権大会、下期のジュニア選抜遠征（未定）に派遣する方向である。地域代表海外国際大会は、2回目になるシンガポールに派遣して地域の活性化をさらに強化する。また、国内強化合宿はオリンピック準強化合宿（中央）とジュニアブロック合宿（地域）を実施する。さらに小学生優秀選手の強化合宿も継続実施する。

国際競技会

(a) 日本・オーストラリア対抗2009	5月9日・10日	キャンベラ
(b) ヨーロッパグランプリサーキット大会	6月	ヨーロッパ
(c) ワールドカップ	11月	ヨーロッパ
(d) アジア選手権大会	未定	未定
(e) ジュニア選抜遠征	未定	未定
(f) ジュニア地域代表国際大会	3月	シンガポール

強化トレーニング

(a) 海外合宿		
(b) 世界選手権国内合宿		
(c) オリンピック強化選手合宿	12月・2月	JISS
(d) オリンピック準強化選手合宿	12月	鈴鹿・富士
(e) 地域合宿	12月	各ブロック担当県
(f) エリート小学生合宿	9月	JISS

コーチ派遣

ASCA会議	9月	アメリカ
企画、研修及び講習会		
(a) 全国強化コーチ会議	4月	浜松 / 10月 東京
(b) ナショナルコーチングスタッフの育成		
(c) 強化コーチの巡回指導		
(d) ブロック合宿担当者会議	11月	東京

(2) 飛 込

飛込委員長 末弘 昭人

高難度種目を習得し、それをきっちりノースプラッシュ入水で決める実力と安定度を高め、世界と互して戦うために練習環境の整備と、指導体制の強化を図り4年後8年後に しっかりした目標を定めた体制を再構築する事が急務である。

国際競技会においては予選・準決勝・そして決勝を難度の高い”自由選択飛”で競い合う。そこで勝ち残るには、技術力は当然として最後まで高い水準を維持できるだけの体力、どんなプレッシャーの中でも最高の演技ができるだけの強い精神力や持続力も必要となる。

それには、小学生高学年前後のジュニアの早い時期に正しい踏み切りと宙返り並びに捻りの技術、空中感覚、体のライン作りと入水技術などの基本的な技術を身に付けさせる事が必要であり、それを実現化するためには陸上練習施設を充実させ、今以上に陸上での練習を徹底させる必要がある。海外の強豪国においては水上の練習よりも陸上練習に重点を置き、練習時間の配分も陸上中心となる傾向が強い。そのために、日本においても何時でも誰でも利用できる陸上練習環境の整備と常時指導できるコーチを配置するようハード面とソフト面の充実が急務である。

21年度、ユニバーシアード競技大会、世界水泳選手権および東アジア大会を主要大会として設定し、各大会における上位入賞を目標として強化を進めていく。

1. ユニバーシアード競技大会および世界水泳選手権

4月に開催する「日本選手権」の結果をもって選手を選考し、5月に開催のFINAグランプリ大会(カナダ・アメリカ)にて実績を積んだあと、6月の事前合宿による最終調整を経て大会に臨む。両大会共通の選手に関しては、ユニバーシアード終了後帰国をせずに世界選手権が開催されるローマに直行し、ユニバーシアードにおいてはメダルを含む複数の入賞を目標とし、世界選手権においては全員が決勝進出する中で複数の入賞を目標とする。

2. 東アジア大会

同じく「日本選手権」の成績によって派遣選考をし、11月から12月にかけての事前合宿を通じて最終調整のうえ香港へ向かう。夏季シーズン終了後の数ヶ月にあらためて基本メニューをしっかりと見直し、更なるステップアップにチャレンジ

をする意気込みが必要となる。

3. オリンピック特別拠点強化事業

基礎技術の習得に止まらず安定して実力を発揮できるだけの体力、精神力を養い、世界に通用する選手を育成する必要から、現在30人程いるジュニア強化選手の中から10人程度のオリンピック強化対象選手を指名し、強化の柱とする。

毎年開催される日本選手権の成績を基に見直しをし、限られた資金を集中させ、改めて基礎技術から高等種目の習得を主眼に置いて、個人種目及びシンクロナイズド種目の充実を継続的な育成体制の中で強化を図る。

国際競技会

(a) FINA グランプリ大会	4月30日～5月3日 5月7日～10日	カナダ・モントリオール アメリカ・フォートゲートル
(b) 中国オープン	2009年3月	中国・(未定)
(c) アジア選手権大会	未定	未定

強化トレーニング

(a) ナショナルチーム強化合宿

(ア) 国際競技会国内事前合宿

・FINA グランプリ事前合宿	4月	1回
・ユニバー・世界水泳事前合宿	6月	1回
・東アジア大会事前合宿	12月	1回

(b) ジュニアチーム強化合宿

(ア) 国際競技会国内事前合宿

・アジアエージ事前合宿	8月	1回
-------------	----	----

(イ) 国内強化合宿	11月・3月	2回
------------	--------	----

オリンピック拠点特別強化事業

(ア) 国内拠点合宿	毎月	12回
(イ) 海外強化合宿	12月・3月	1回

企画、研修及び講習会

(a) 強化コーチ会議

(b) 研修会

・国際審判員クリニック	8月
・審判員研修会	
・コーチ研修会	

(c) ブロック代表者会議

(3) 水 球

水球委員長代行 原 朗

水球は、平成21年度目標として、男子・女子とも強化の主軸と位置づけ3年間チャレン

ジしながら達成できていないワールドリーグスーパーファイナル進出を継続して目指す。ワールドリーグは、毎年開催されるFINAの主要水球大会で、各国の最強チームが出場する大会である。日本としてはアジア・オセアニア地区予選会で、豪州に追いつき、且つ中国を凌駕して、スーパーファイナルに出場すること。そしてスーパーファイナルでは、どこまで世界の上位チームに伍していくことができるかを試す非常に有益な機会であると捉え、本大会を2012年ロンドンに向けた、登竜門として徹底して取り組む。

また、ユニバーシアード大会では、メダル獲得を目指すことを目標とする（今年から女子も正式種目となっている）。

戦術面では、弱点ポジションであるセンターライン選手（GK・センターフォワード & バックス）の強化・育成が重要な課題であり、海外強化拠点（クロアチア・スプリット）を有効に活用し強化を図りたい。

ジュニアについては、日本で開催されるアジアエージ選手権大会で必ず優勝する事を目標とし、大会までに2回の国内合宿を実施して本大会に臨む。この大会に参加する男女ジュニア選手は、2007年度から継続して育成を図っており、2016年オリンピック時の中心選手となる。

また、社会人の主力選手欧州派遣事業についても、派遣選手の選考を現状の成果と今後の成長性、期待度を考慮し、見直しつつ実施していく。派遣選手がマンネリ化しないよう、競争を促していきたい。派遣枠は最大4名として、半年単位にて委員会内で慎重な審議を行い、連盟に推薦して決定する。

一方、国内強化については、4月から強化対象選手を少数精鋭に絞り、国立スポーツ科学センタープールを強化拠点として、継続した代表練習を実施する。国内合宿については、各カテゴリーにおいて体力、技術、戦術の競技力の三要素だけでなく、世界で戦い勝つために必要な心の育成を目的に座学を積極的に取り入れて行きたい。最後に、国内競技会の改革についても「競技力向上および強化に資する」という観点で継続推進していきたい。

国際競技会

(a) ワールドリーグアジアオセアニアラウンド（男子）	5月22日～24日	オーストラリア・未定
	5月29日～31日	ニュージーランド・オークランド
(b) ワールドリーグアジアオセアニアラウンド（女子）	5月22日～24日	オーストラリア・未定
	5月29日～31日	ニュージーランド・オークランド
(c) ワールドリーグスーパーファイナル（男子）	6月16日～22日	モンテネグロ・ポグトリカ
(d) ワールドリーグスーパーファイナル（女子）	6月9日～15日	ロシア・キリシ

強化トレーニング

- (a) 海外強化合宿（クロアチア スプリット）
- (b) 男子ユニバーシアード事前合宿（スペイン）
- (c) 国際競技会国内事前合宿
- (d) ナショナルチーム合宿

- (e) ジュニア合宿
- (f) 代表男子海外クラブチーム個人派遣
チーム招待・コーチ招聘
- (a) ゴラン・サブリッチ招聘（継続）

企画・研修および講習会

- (a) 強化コーチ会議
- (b) タレント発掘・巡回指導
- (c) 研修会
 - (ア) コーチ研修会
 - (イ) 審判員・指導者合同研修会
 - (ウ) ジュニア指導者研修会
- (d) 国際情報収集
- (e) 日本代表ゲーム分析・評価事業
- (f) 水球教室：簡易水球（仮称）ルールの検討による普及・強化策の展開
- (g) 水球競技広報活動（イベント等の検討）

地方競技会の充実支援、審判員の育成

- (a) 全国水球委員長会議
- (b) 水球ブロック長会議
- (c) 審判員講習会
- (d) 競技運営勉強会

（４）シンクロ

シンクロ委員長 金子 正子

オリンピック翌年は世界中どの国も選手、指導者の新旧交代期にあたり、万全の態勢で臨むことの難しい年に当たる。日本のシンクロ競技も大きく組織替えをし2012年、2016年へ向かって心機一転したスタートを切る準備に余念がない。シンクロの世界情勢はここ数年来、ヨーロッパを中心とした複数国が力をつけ上位1・2位外は、実力はほぼ一線に並んでいるのが現状である。身体に多少のリスクがあっても正確な技の力で世界のトップ国に位置してきた日本であるが、諸外国の求めに応じてたくさんの指導者が世界各地に出ていくようになり、日本は厳しい状況下に置かれるようになった。日本は乗るか反るか、ここ1、2年の勝負力にその後の明暗がかかるといえる。シンクロ委員会では競技力を落とさず、さらなる強化を図っていくため、この4月より新たな委員会体制を立ち上げ、強化策を挺入れし、新たな強化育成策を構築していく。ここ数年来推し進めてきた、競技者育成策のユース強化に特別の力を入れて思い切った強化を進めていかなければならず、限られた時間を考えると、スムーズな役割交代、止まることのない強化プログラムの推進が不可欠である。新年早々に新旧同時体制で2009年度の、世界選手権、

アジアエイジグループ代表選考会を実施、動き出しを速めている。特に力を入れていくのは日本人が苦手としている陸上を強化拠点の場とした特殊技術のアクロバットや表現力の強化と今までの施策をさらにステップアップし全国都道府県の強化増進を図ったジュニア、ユースエリート強化を展開していく。又、強化が急務なのは力のあるコーチを育てることである。中央での目指す方向性をしっかりと示し、完成度の高い力を持った、世界で戦える指導力を養う勉強の機会を作っていく。世界の情勢、情報をしっかりと把握し、戦略をしっかりと立てて、常に危機感を持って勝負に対し勇気を持って攻めの姿勢で進んで欲しいと願う。

国際競技会

(a) ワールドトロフィー	11月27日～29日	カナダ・モントリオール
(b) ジャーマンオープン	3月	ドイツ・ボン
(c) チェコ国際ジュニア	12月	チェコ・プラハ
(d) アジア選手権大会	未定	未定

強化トレーニング

- (a) 国際競技会国内事前合宿
- (b) ナショナルチーム特別合宿
- (c) ジュニアエリート育成対象者特別合宿（エリート・ジャンパー発掘・育成）
- (d) ブロック選抜トレーニングキャンプ
- (e) ジュニア選抜強化合宿

企画・研修・講習会

- (a) ナショナルコーチ会議
- (b) ナショナルジャッジ会議
- (c) 全国強化コーチ会議
- (d) シンクロ委員会・委員総会
- (e) 全国委員長会議・ブロック代表会議
- (f) 競技者育成プログラムバジジテスト
- (g) 生涯スポーツ推進プロジェクト
- (h) 研修会
 - (ア) 全国コーチ・ジャッジキャンプ
 - (イ) ルール改正特別研修会
 - (ウ) 審判研修・講習・検定
 - (エ) 競技役員研修会
 - (オ) その他

(5) 医・科学委員会

医・科学委員長 野村 照夫

平成21年度は、関係諸委員会と連携を深め、現場の意見を反映して、競技力向上に関

する科学サポートを国内競技会および国際競技会への選手団派遣にともなう合宿等で実施する。また、競技会における救護および国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理においては、水泳に関わる安全管理、強化対象選手の健康診断・体力テスト、アンチ・ドーピング活動、ドーピング・コントロールの実施、医事相談活動、調査研究等を実施することで、医事サポートを充実させる。そして、教育・啓発活動においては、第22回日本ドクター会議、第19回日本トレーナー会議への協力等を通して、水泳文化の向上に寄与する。さらに、指導者資格付与制度に対し、専門知識の提供を骨子とし、養成講習会の講師派遣等への協力を行う。その他、水泳の医科学に関わる教育・普及活動では、地域の科学サポートの基盤づくり、ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進、医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナー等を実践する。

競技力向上に関する科学サポートの実施

競技会における救護活動による医事サポートの実施

国際競技会への選手団派遣に伴う医事管理

(a) アンチ・ドーピング活動

(b) ドーピング・コントロールの実施

(c) 強化対象選手の健康診断・体力テストの実施

(d) 相談活動及び調査研究

教育・啓発活動

(a) 第22回日本ドクター会議への協力

(b) 第19回日本トレーナー会議への協力

指導者資格付与制度への協力

その他 水泳の医・科学に関わる教育、普及活動

(a) 地域における科学サポートの基盤づくり

(b) ジュニアの競技力向上に関する科学サポートの推進

(c) 医学生・若手医師のためのスポーツ医学・健康医学セミナーの実施

4. 競技運営事業

(1) 競 技

競技委員長 安部 喜方

静岡県浜松市に古橋廣之進記念浜松総合水泳場が、2009年2月オープンする。その竣工直後の会場で、競泳日本選手権を行う。世界水泳選手権2009・ユニバーシアード大会・第1回日本・オーストラリア対抗2009の代表選手選考会も兼ねる。

また、8月にはアジアエージ選手権大会(4競技)が東京・千葉で開催される。

ジャパンオープン(50m)は2012年まで、毎年引続き開催される。

加盟団体別競技役員の上級・一種・二種一覧を作成し、競技役員登録者を再点検し次期登録の基盤づくりをする。

日本選手権大会の3日目に全国競技委員長会議を開催する。加盟団体の競技委員長が全国大会で審判員を経験することにより、日本全体の競技会運営のレベルアップを図り競技役員の資質向上につなげていく。

(1) 競技運営

各種目競技会日程要項作成

各種目競技会要項に基づく競技会の実施・運営

国際大会の開催

第6回アジアエージ選手権大会

◆ 競泳	8月9日～13日	辰巳国際	東 京
◆ 飛込	8月9日～13日	辰巳国際	東 京
◆ 水球	8月7日～13日	東京体育館	東 京
◆ シンク口	8月9日～13日	千葉国際	千 葉

主要競技会

(競泳)

日本選手権水泳競技大会	4月16日～19日	浜松市総合	静 岡
兼第13回世界水泳選手権代表選手選考会			
兼第25回ユニバーシアード競技大会代表選手選考会			
兼第1回日本・オーストラリア対抗2009代表選手選考会			
中大・日大対抗戦	5月30日	辰巳国際	東 京
早大・慶大対抗戦	5月31日	辰巳国際	東 京
ジャパンオープン(50m)	6月5日～7日	辰巳国際	東 京
日本実業団競技大会	8月1日・2日	宮城県立	宮 城
全国国公立大学選手権大会	8月10日・11日	野幌総合	北 海 道
日本高等学校選手権大会	8月17日～20日	府立門真	大 阪
全国中学校水泳競技大会	8月21日～23日	福岡県立	福 岡
全国ジュニアリリィックカップ夏季大会	8月26日～30日	辰巳国際	東 京
日本学生選手権大会	9月4日～6日	熊本市総合	熊 本

	国民体育大会	9月11日～13日	県立長岡	新潟
	ジャパンオープン(25m)	2月27日・28日	辰巳国際	東京
	全国ジュニアオリンピックカップ春季大会	3月27日～30日	辰巳国際	東京
(飛込)				
	日本選手権水泳競技大会	4月3日～5日	辰巳国際	東京
	日本高等学校選手権	8月17日～20日	府立門真	大阪
	全国中学校競技大会	8月21日～23日	福岡県立	福岡
	全国ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～29日	横浜国際	神奈川
	日本学生選手権大会	9月5日～6日	小松末広	石川
	国民体育大会	9月11日～13日	県立長岡	新潟
(水球)				
	日本高等学校選手権	8月17日～20日	大阪府立	大阪
	全国ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～30日	京都アクアリーナ	京都
	日本学生選手権大会	9月3日～6日	相模原市	神奈川
	国民体育大会	9月10日～13日	県立柏崎	新潟
	日本選手権水泳競技大会	9月25日～27日	横浜国際	神奈川
	全国女子水球大会	9月25日～27日	横浜国際	神奈川
	全日本ユース(U15)大会	12月24日～27日	倉敷他	岡山
	全国ジュニアオリンピックカップ春季大会	3月26日～30日	千葉国際	千葉
(シンクロ)				
	日本選手権水泳競技大会	5月2日～5日	辰巳国際	東京
	チャレンジカップ	7月28日～31日	横浜国際	神奈川
	全国ジュニアオリンピックカップ夏季大会	8月26日～29日	長野アクアインク	長野
	国民体育大会	9月9日	県立長岡	新潟
	ソロ・デュエット大会	1月23日	辰巳国際	東京
	ナショナルトライアル	1月24日	辰巳国際	東京
(その他)				
	OWSジャパンオープン	7月19日	館山	千葉
	館山OWS大会	7月20日	館山	千葉
	日本マスターズ大会	7月17日～20日	横浜国際	神奈川
	日本泳法大会	8月22日・23日	浜松市総合	静岡
	日本スポーツマスターズ	9月19日・20日	静岡県立	静岡
	日本泳法研究会	3月20日・21日	香川県立	香川
	競技役員の研修会・講習会			
	ブロック			
	各地域			
	日本選手権・ジャパンオープン(50m・25m)の実技研修			
	競技委員長会議の開催			
	選手登録			

競技役員登録（昇格基準の整理・登録のデータ化）

競技運営企画・立案

記録の公認・管理

日本記録の公認および高校・中学・学童記録の公認

F I N A への世界記録の申請

ホームページ上の記録の管理

(2) 学 生

全国代表者会議の開催(年4回)

日本学生選手権大会の開催

全国国公立大学選手権大会の開催

(3) ジュニア

全国 J O C ジュニアオリンピックカップ夏季大会の開催

全国 J O C ジュニアオリンピックカップ春季大会の開催

水泳資格表の作成

5 . 指導者養成事業

指導者養成事業担当 設楽 義信

競技力向上コーチ委員会は、よりハイレベルなトップアスリート育成を目指す指導者養成事業を実施していく。コーチの新規養成、上級コーチ昇格のための資格審査、全国での研修会の実施、新規資格登録および更新事務等の業務を行う。

地域指導者委員会は、情熱ある初級指導者の育成と登録事務を計画実施していく。基礎水泳指導者および水泳指導員養成事業、新規資格登録および更新登録事務、上級指導者の養成、免除適応校検定、マスター上級義務研修等の業務を行う。

水泳教師委員会は、職業人としてのプロの水泳指導者の養成事業を行う。水泳教師新規養成、新規資格登録および更新事務、資格更新研修会、在籍施設証明事業の推進、適応コース検定会の実施等の業務を行う。

なお、三委員会合同で「水泳時の水分補給」キャンペーンを展開し、水泳時の安全普及活動を行う。

(1) 競技力向上コーチ委員会

競技力向上コーチ委員長

設楽 義信

コーチ資格審査（上級昇格 年 2 回）の実施

コーチ資格の新規登録・更新登録事業

コーチ研修会事業（コーチ 11 会場・上級コーチ 2 会場）

新規養成事業の推進（コーチ・上級コーチ）

コーチ規定改正版の発行

(2) 地域指導者委員会

地域指導者委員長 宮本 憲二

基礎水泳指導員に関する事業

- (a) 養成事業に係わる特例・指導・助言
- (b) 資格の新規登録、更新登録業務
- スポーツ指導員新規養成事業の推進
- (a) 水泳指導員の養成（加盟団体への協力・助言、資格取得の督励）
- (b) 水泳上級指導員の養成再検定（日水連が主催・主管）
- スポーツ指導員有資格者の更新・登録業務
- 免除適応校専門科目検定試験の実施
- マスター称号上級指導員義務研修会の開催
- 全国地域指導者（普及）委員長会議の開催
- 加盟団体各地区委員長会議の開催
- 研究、編纂事業
- ホームページの充実
- 「水泳時の水分補給」キャンペーン活動の実施

(3) 水泳教師委員会

水泳教師委員長 澁谷 俊一

水泳教師新規養成事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

A．適応コース講習検定会の実施 5校（日本水泳連盟担当）

- ・大阪社会体育専門学校
- ・東京スポーツレクリエーション専門学校
- ・トライデント・スポーツ健康科学専門学校
- ・東京YMCA社会体育専門学校
- ・東京リゾート&スポーツ専門学校

B．新規養成コース講習検定会の実施（日本スイミングクラブ協会担当）

- ・日本スイミングクラブ協会全国10支部の各会場にて開催

C．「資格を取ろうキャンペーン」活動の実施

（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

水泳教師資格の新規・更新登録事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

- ・4月・10月認定「日水連・SC協合同検定委員会」の開催

水泳教師資格更新研修会事業（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

- ・日本スイミングクラブ協会全国10支部の各会場にて開催

水泳教師在籍施設証明事業の推進（日本スイミングクラブ協会と合同推進）

- ・4月・10月認定 認定施設の新規・更新登録事業

6. 国際関係事業

国際関係事業担当 佐野 和夫

- (1) 国際水泳連盟 (F I N A) 及びアジア水泳連盟 (A A S F) 関係業務
- (2) 諸外国との交流に関する業務 (競技者資格証明の発行等を含む)
- (3) 国際大会開催に関する諸業務

7. 生涯スポーツ・普及事業

生涯スポーツ・普及事業担当 山本 浩

生涯スポーツ委員会の事業は、多面的要素が多々あり、まだまだ個々の理解度の低さが見られる。平成21年度は普及活動に傾注し、究極の目的である強化に繋がる為の活動、併せて体力・健康増進の一端を担うべき活動を推進する。

日本泳法委員会では、資格審査方法の変更と、普及活動を日本泳法ハンドブック、実演映画DVD化等を使用して地域からのニーズに合わせる活動を率先する。

OWS委員会では、安全重視の競技会運営を目指す。共に集客型施設を利用した記録会を実施して実績を残し、大会に向かう。また、国内で実施されている競技会をサーキット方式の考えで企画する。

泳力検定会では、受検者の拡大を狙い全県の実施を目指し、特別検定会も5県以上実施し、トップ選手の模範泳法等も取り入れ水泳に興味を持たせる活動も増やしていく計画とする。

日本スポーツマスターズ大会では、全県参加を目指し、地方体協への強力なアピールを行いシニア層の国体として位置づける。合わせて、地域スポーツクラブとの関わりで、日本泳法・泳力検定会を育成の一環として取り組み、有効な普及の手段とする。

- (1) 日本泳法委員会 委員長 八木沼 正彦

第54回日本泳法大会

平成21年8月22日(土)・23日(日)

浜松市古橋廣之進記念総合水泳場

浜名湾游泳協会は、日本泳法が盛んな土地であったが、最近では参加者も減っており、当地での普及と振興を目指して開催。

第59回日本泳法研究会

平成22年3月20日(土)・21日(日)

香川県高松市 アルファあなぶきホール他

課 題 「 水任流 」

普及・広報体制の強化

ハンドブック・DVD・泳法の歴史等使用する

- (2) OWS委員会 委員長 鷲見 全弘

競技会運営 (安全重視の競技会運営)

- (a) 「OWSジャパンオープン2009館山・第13回館山オープンウォータ大会」の開催
7月19日(日)・20日(月) 館山市北条海岸(鏡ヶ浦)
- (b) 「湘南オープンウォータースイミング2009(湘南OWS実行委員会主催)」の運営協力、加盟団体が主催するOWS大会の運営協力
- (c) 集客型施設(競艇場、漕艇場、それに類する施設・場所)を使用した練習会(又は記録会)の実施
普及発展(競技人口の拡大)
 - (a) OWSスイムクリニックの拡充
 - (b) 国内競技会のサーキットシリーズ化(年間10大会)構想の企画・立案
競技力向上(実践経験を通じた強化の推進)
 - (a) 国際大会への選手派遣
 - (b) 選手の発掘・育成・強化に向けた日本トライアスロン連合との連携
 - (c) 年代別チャンピオンシップ大会の構築の着手

(3) 生涯スポーツ・普及委員会 委員長 山本 浩
 日本スポーツマスターズ大会2009
 平成21年9月19日(土)・20日(日) 静岡県立水泳場
 特別泳力検定会の実施 5県を予定
 地域スポーツ活動への支援・協力

8. 総 務

総務事業担当 泉 正文

広報委員会は、月刊水泳の発刊とホームページ運営の両事業の役割分担を明確にし、月刊水泳事業は内容の充実と購読部数の増加、ホームページ事業についてもタイムリーな情報の公開と時代のニーズに合致したページ構成を工夫し、アクセス数の飛躍的拡大につなげたい。

施設用具委員会は、プール公認規則の見直しと公認審査体制をより充実させ「Q & A」の活用など審査業務の円滑化を図る。将来的には、水泳競技を取り巻く用器具の研究開発ならびに新規建設プールに対する適切なアドバイスが行える体制作りを目指したい。

情報システム委員会は、Webシステムの更なるバージョンアップと登録業務の完全実施、ランキングシステムの完璧な運用を確立する。また、各加盟団体と密接に連絡をとり、登録料徴収システムの構築を図る。

総務委員会は、各委員会との連絡調整をより密にし、諸規定の見直しを継続して実施するとともに新公益法人制度改正に向けての対応を企画・立案する。また、適切な予算・決算管理と事業執行をサポートし、ロンドンオリンピックを目標とした短期・長期の財務体制強化策を具現化し、収益事業並びに免税基金事業のより促進とスポンサー各社との更なる連携強化を図る。

総務部門全体で「センターポールに日の丸を！」のスローガンのもと、ロンドンオリ

ピックでの好記録につなげるための諸事業に積極的に取り組んでいく所存である。

(1) 広報委員会

広報委員長 坂元 要

月刊水泳の内容充実と定期購読者増のアピール
ホームページの充実と活用促進
広報活動

(2) 施設用具委員会

施設用具委員長 岡本 堯生

プール公認規則等の整備と実施
プール施設の公認
用器具の公認、推薦
プール施設及び用器具の研究、開発

(3) 情報システム委員会

情報システム委員長 須永 孝

Web版の競技者登録及び大会エントリーシステムの普及と改善
・ ブロック大会、全国大会エントリーでの活用
・ 中体連主催大会エントリーでの活用
リザルトシステムの普及と改善
・ S E I K Oリザルトとシチズンリザルトとのデータ連携
記録ランキングシステムの連携と改善

(4) 総務委員会

総務委員長 泉 正文

事業計画の作成
新公益法人制度改正への対応
寄付行為及び諸規定の整備、規定集の発行
公認・推薦等、収益事業の推進と統括
免税基金事業の推進と統括
有功章の表彰
各種登録及び更新業務
オフィシャルサプライヤー制度の推進
各種会議の開催
各種の渉外業務
事務局の管理
地域会議の開催

9 . 財務一般会計

財務担当 山重 美登士

予算の作成と執行管理
中長期財務対策

10 . 特別委員会

(1) 財務委員会

財務委員長 堀 正美

賛助会員登録の推進
免税募金業務

(2) 競技者資格審査委員会

競技者資格審査委員長 青木 剛

競技者資格の審査

(3) 選手選考委員会

選手選考委員長 林 利博

国際競技会派遣日本代表選手団の選考

(4) 指導者養成委員会

指導者養成委員長 泉 正文

指導者養成制度の推進と資格認定審査

(5) アンチ・ドーピング委員会

アンチ・ドーピング委員長 佐野 和夫

アンチ・ドーピング活動の計画と推進

(6) スポーツ環境委員会

スポーツ環境委員長 佐野 和夫

スポーツ環境保全活動の啓発と指導・推進

(7) 倫理委員会

倫理委員長 青木 剛

倫理、社会規範意識の啓発と指導